

ものづくり de 教育

Vol.28 Mar. 2011

Topics

- ものづくり教育演習最終回
- 1期生レポート①
- キーワード：ものづくり教育
- 生きづらい時代のプロジェクト考

東京学芸大学教育学部
小学校教員養成課程
《ものづくり教育選修》
もうすぐ開設一周年！

ものづくり教育演習 1年まとめのプレゼンテーション

2月の中旬、1年生の全授業が終了しました。「ものづくり教育演習Ⅱ」の授業では、これまでの活動の最終報告と春期からの自分の課題や取り組み方の宣言をプレゼンテーションしました。1年間の集大成を発表する場で、緊張感がある中で、教員も学生も真剣に意見を交わしました。一期生の津島美里がレポートします。 **話を進める段取りが上達してきた。** ▶



「ものづくり教育演習Ⅱ」の最終プレゼンテーションは、各学生がなぜそのようなテーマにしたのか、どのように自分と向き合っ
て計画、実行し取り組んできたのかを分かりやすくプレゼンテーションにまとめ 10 分間の発表をしていきました。それに対して、
20 分の質疑応答で意見を交わし、教員から取り組み方や考え方など活動全体について、細かな指摘やアドバイスを受けます。学生は今回の課題の反省点や来期のプロ
ジェクトへのイメージを掴もうとしました。



学生の一人は、秋期課題に「トイレ掃除」を取り上げました。彼女は、地元の小
学校でトイレ掃除をしなくなったことに疑問を持ち、それはなぜなのか探求しまし
た。まず、何を調べるべきかを、東京学芸大学の竹美登利教授に掃除について聞
きに行き、掃除の大切さなどアドバイスを受け、掃除に関する書物を読み、自分の
知識として取り込んでいきました。そして、清掃現場の方々や学務課の協力のもと
本選修の 2 人の学生と共に大学のN棟 1 階の女子トイレの掃除を行いました。実際
に体験することで、トイレ掃除で生まれるトイレへの愛着やトイレ掃除を行うこと
によって築くコミュニケーションの大切さに気づくことができましたようです。質疑応
答では、教員から「自分の経験や考えの軸がみえて良かった」「楽しただけでま
とめるのは良くない」「トイレは良い着眼点、幅広い活動に繋がる」などの意見をベ
ースに熱い質疑が交わされました。プロジェクトを実行し、達成感を得たからこそ、
次へ展開するための選択肢も広がり、モチベーションも高まっていました。彼女が
気づいたことや指摘された課題を踏まえ、どのように発展させるのが楽しみです。



▲ 学科の友人と共に、クリスマスの夜に実行した。

Column::

生きづらい時代のプロジェクト考

山田一美

山田先生のコラムをお届けします。ものづくり教育選修の学生たちのいちばん大きな課題はそれぞれのプロジェク
トに向き合い、取り組むことです。何のためにそれを行うのか？のヒントがここからみつかるかもしれません。(新名)

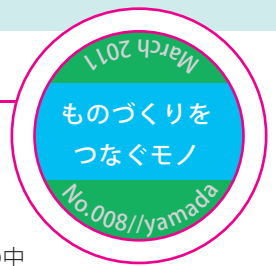
少子高齢化、長い経済不振、財政危機と言うように、テレビや
新聞のどれを見ても、明るい話題が少ない。それどころか、暗く
て生きづらい世相を映す記事ばかりである。最近では、その原因
を人口問題に置く例がとくに目立つ。

例えば、日本の人口は 2005 年から減少傾向に転じ、約 30 年後
には 1 億人を割り、その 30 年後には、ピークの半分近くの 6400
万人になるという。身近な話題では、総務省の平成 23 年 1 月の
人口推計によれば、二十歳の新成人の人口は初めて 1%を割り込
み、0.97%となった。「働き盛り」「消費盛り」の現役世代が減るから、
だから「ものをつくる」関係は萎縮しがちなのか。

ところで、ノーベル経済学賞のカーネマン氏の調査によれば、
日々の「幸せ」を感じる割合は年収 620 万円ほどで頭打ちにな
るそうだ。幸せ感は、小さな喜びを十分に味わえること。高い年
収で満足は買えるが、幸せは得られないということである。また、

人間は寒い季節ほど「幸せ」への感度
をふくらませる生き物である。寒い世の中
であれば、それだけ「幸せ」感を実感できる機会と場の必要度が
増してくる。

3月は卒業シーズンである。「卒業」とは、「その前の世界から
の脱皮」であり、自立に向かう境目である。だからこそ、自分の
再構築に「脱皮」や「自立」は欠かせない。こんな時代、人々に、
そして子どもたちに何が必要か。「物」をたくさん創り出す産業
基盤の整備や、経済の成長戦略に目を奪われがちだが、それだけ
では幸福感は得られない。お金が多くなっても、支え合い、人々
に笑いや喜び、希望、夢をつくり、成長としての脱皮と自立を促
す活動内容をプロジェクト化することも「ものづくり教育」のテー
マだと言えないか。



東京学芸大学ものづくり教育選修

No.023

※平成22年度に開設された新学科。現在教員6名が指導にあたり、学生11名が学んでいる。

「ものづくり教育選修とは？」と、一期生11人に尋ねました。(ものづくり教育選修=ものづくり教育=ものづくり) じっくり自分自身を見つめることができる場所。ものづくりとは、興味あることの追求。体を通して子ども達が理解し、人と人・人とのつながりを大切に教育。コミュニケーション命。自分を見つめ直す。まだ未知、でも、自分で少しずつ見つけていくモノ。ものづくり教育は、深い。ものづくり教育は、つながりを作る教育。考える事で、自分の能力を見出す選修。ノーボーダー。自分を見つめ直すことができる。やりたいことを支えてくれる先生、友だちがいる最高の環境。

一年を過ごした11人の学生たちは、それぞれ、コミュニケーション能力の大切さと、自らが能動的に動かなければすべてが始まらないことを実感しています。自分が何をしたいのかを伝えて理解してもらおうこと、相手が何を要求してどのように応えるべきかなど、意思疎通の難しさや面白さを繰り返し経験してきました。誰かと何かをするために、自分はどうか考え行動すべきか、その必要な技術を少しずつ身につけている毎日です。

ものづくり教育選修

1期生レポート

第11回 附田翔太郎
「ものづくり教育選修でやりたいこと」

「ものづくり教育選修でやりたいことは何か?」「自分が興味のあることは何か?」学科内で繰り返し問われる問いに、私は戸惑いました。今、自分が「やりたいことは何だろう」「何に対して興味があるのか」、答えに窮し、悩みました。これまで、与えられた課題をこなすことだけに終始していた自分を自覚し、苦しみながら、悩みながら、試行錯誤を繰り返しながらの「真の学び」がスタートしました。

1年の前半、やりたいことを見つけるためには、様々な体験をしなければならぬと考え、機会を見つけてはワークショップやボランティア、授業参観などに参加し、多くの子どもたちと触れ合いました。それぞれの場面では、常に「子どもたちに働きかけるきっかけ」を探しました。実際に見る子どもたちの表情や行動は、予想以上の反応があり、得るものが多かったです。先生方の指導を間近に見ることができ、今、先生は何を伝えたいのか?どんなことを考えてほしいのか?に注目できました。その中で、私は「道徳」に興味をもちました。道徳は、子どもたちの心に働きかける大切な授業の一つで、子どもたちに伝えたい内容が詰まっている時間だと感じたからです。これらの体験をもとに、秋学期は道徳授業の作成を中心に私のものづくり教育が始まりました。道徳の授業を組み立てる中に①読み物資料の内容を理解しやすくするための紙芝居の作成②ポイントをおさえるための手順の工夫③中心発問の吟味④各教科との統合⑤教材開発など、多くの工夫が必要だとアドバイスを受け、取り組んでみたいことをたくさん見つけられました。

後半になると、興味のある分野を極め、そこから視野を広げ

ていかなければならぬと感じました。一年間、ものづくり教育を学び、考え方が入学する前と大きく変



▲ 道徳教材の紙芝居を友人に見てもらい練習する。

わってきました。はじめは「ものづくり教育とは、デジタルな教育に歯止めをかけ、アナログの良さを子どもたちに伝えていくことだ」と思っていました。しかし、デジタル機器を使う中からでも、ものづくり教育を通した「人」づくりはできるという選択肢に気づいたのです。以前から映像に興味があった私は、少し時間はかかりましたが、「興味あることの追求」のスタートラインに着けました。映像は、時に静止画よりもインパクトが強いものです。子どもたちの心を揺さぶるような働きかけをするために、教室と映像の世界を結びつけることは、珍しくありません。映像を活用することによって、子どもたちにどんな視点を与えることができるのか、どんな力をつけることができるのかなどについて考察し、まずは映像手法をたくさん見たいと思っています。そこから、ものづくりの原点が見えてくると考えています。「映像を使ったコミュニケーション作り」、このテーマの追求こそ、今、私が最も興味をもっていることです。

一年間の大学における様々な学びを通して、私は「映像を使ったコミュニケーション作り」という大きな目標を見つけてことができました。その土台となる「知性」と「感性」を磨くために、学びも遊びも充実した大学生活を過ごしていきたいと思っています。来年度からの研究と実践が楽しみです。

◆このコーナーでは毎月一期生が気になっていることを順番にレポートしていきます。